

安全衛生対策強化月間～自分もとより働く仲間と家族の安全と健康を願って～

ご安全に！7月の安全衛生対策強化月間がスタートしました。

加盟組合・構成組織みなさんの事業所・職場においても、安全ビラの配布や現場パトロールなど、労使一丸となって労働災害の撲滅に向けた様々な活動に取り組まれることと思います。

基幹労連における2020年の労働災害発生状況（休業4日以上）の調査結果では、増加傾向にあった件数・被災者数が減少に転じました。その内容を見てみると、経験年数別では0年～4年と経験の浅い被災者が全体の4割強を占めてはいるものの、件数自体は大幅に減少しています。年齢別では、40歳～49歳の比率が高まっていますが、60歳以上が大幅に減少し、その他の年齢層でも総じて減少していることが伺えます。また、災害の型別については、依然として「挟まれ・巻き込まれ」「墜落・転落」が大半を占める状況にあります。

一方、厚生労働省からも令和2年の労働災害発生状況が4月30日に発表されています。労働災害に起因する原因で亡くなられた方は全国で802人と前年より減少しましたが、休業4日以上死傷者は131,156人で5,000人以上の増加となっています。また、亡くなられた方の型別を見ると、墜落・転落が191人、挟まれ・巻き込まれが126人であり、合わせると前年と同様に全体の4割近くを占めています。前述のとおり、基幹労連の労働災害発生状況調査でも、この二つが突出しており、労働災害の要因がこうした傾向にあるということ自らの職場に置きかえ、今一度、リスクの洗い出しと意識づけを行い、安全衛生活動に活かしていただければと思います。

また、6月10日に開催した安全衛生担当者研修会2021で講演をいただいた中央労働災害防止協会（中災防）より、7月の安全週間の要綱のポイントと取り組むべき内容のヒントを動画にしたYouTube（<https://www.youtube.com/watch?v=2vGIra0rB9U>）をご紹介します。安全衛生対策強化月間の取り組みの参考として、労使で共有いただければと思います。

安全衛生対策強化月間にあたり、今年も安全ポスターを募集させていただきました。組合員・ご家族の皆さんから673点の応募があり、大人の部・子供の部、それぞれに中央本部役職員で審査を行い、優秀賞2点、佳作14点を選考しました。

審査結果は6月25日発行の機関紙6月号に掲載していますが、応募いただいたすべての作品で、働く仲間・家族の安全と健康を願う気持ちが溢れていました。是非ご覧いただき、作品に込められた想いを感じていただければと思います。

今年もコロナ禍での夏を迎えることとなります。マスクは、新型コロナウイルス感染症対策の一つですが、暑い夏にマスクを着けることは熱中症のリスクが高まることとなります。熱中症に気を付けながら感染症対策を徹底し、職場のみならず日常生活においても、自分もとより働く仲間と家族の安全と健康を常に意識した行動と注意喚起を心がけましょう！

全ての職場でご安全に！全ての働く仲間を思いご安全に！心を込めてご安全に！

2021年7月1日
日本基幹産業労働組合連合会
事務局長 津村 正男